

大清水小学校のESD活動

<活動の概要>

- ・「地域に愛着をもち、自ら活動できる大清水っ子」をテーマに、総合的な学習や教科などでESD活動を進めている。
- ・ESD活動を「他者とかかわり協力・協同して実践する」「地域社会に主体的に参加する」「多面的に物事を考え自ら実践する」態度や能力を育てる場ととらえ、地域のさまざまなキャリアをもつ方々との交流を行っている。

<活動の実際>

① 防災にかかわる活動（6年）

出前授業では、実際に地震が起きた時の揺れを体験したり避難所生活がいかに大変かを感じたりした。子どもたちは、「地震はいつきてもおかしくない」ということに気づき、地震に対して十分に備えをする大切さを学んだ。そして、「もしも、地震などの災害が起きた時に、地域に危険な場所はないかな」と考え始め、自分の住む地区の危険箇所調査を行った。その結果、危険な場所はあるものの、普段気づいていなかった地震対策が行われていることをとらえることができた。一方で各家庭では十分な備えができていのだろうか、ライフラインが寸断された時の避難袋の中身について考えた。自身の家庭環境に合わせて、どんな物が必要かをまとめた。また、地震が起きた時の地域の被災への取り組みを学んだことで、自分たちの命を守るために、多くの人たちが協力して助け合っていることを学んだ。このような活動を通して、子どもたちの地震に対する心構えを育むことができた。



避難所体験の様子
発電機を活用して
いるところ

② 地域にかかわる活動（3年）

大清水小の校章、大清水神社のマーク、校区章などいろいろなところにしょうぶの花が使われていることから「どうしてしょうぶが大清水校区のシンボルになっているのかな？」という疑問がわいた。自治会長さんに話を聞いたり、校区記念誌を読んだりして調べる中で、昔、大清水には大きな湧き水があってノハナショウブが群生していたこと、つらい開拓の時代を過ごした人々が花を見て癒されたことなどを知った。しょうぶを身近に感じようと、しょうぶの会の方に教えてもらって一人一鉢を育てることにチャレンジしている。また、学んだことを広めようと、1年生の教室を訪問して「しょうぶで勝負！」というクイズ大会を行ったり、しょうぶ新聞を発行したりした。一連の活動を通して、子どもたちに校区に親しむ心を育むことができた。と考える。



しょうぶの歴史を描いた壁画(共同制作)

③ 福祉・人権に係わる活動（5年）

総合「ともに創る ともに生きる」の学習では、地域の高齢者施設との交流づくりを通して、よりよい社会づくりについて考えた。施設の職員の方に話を聞いたり、車いす体験で不自由を実感したりする中で、車いすに乗った施設の利用者にも、自分たちと同じ点や、違うけど一緒にできる点が多いことを学び、「一緒に遊ぶ」交流を計画した。

5年生全員でダンスを踊ったり、「パラリンピック」で一緒に活動したりした交流は、お年寄りに大変喜んでいただけだ。高齢者施設との関わりを一例にして、社会には多様な人々が生活をしていることを身近にとらえ、ともに社会参画しようとする意識を育むことができた。



グループホームとの交流
「マリーゴールドありがとうの会」